



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月7日

上場取引所 東 札

上場会社名 ホクカンホールディングス株式会社
コード番号 5902 URL <http://www.hokkanholdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 工藤 常史
(氏名) 山崎 節昌

TEL 03-3213-5111

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日

平成28年12月12日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年3月期第2四半期 | 66,322 | 3.5 | 6,621 | 74.0 | 7,505 | 71.4 | 4,921 | 89.9 |
| 28年3月期第2四半期 | 64,049 | △22.9 | 3,804 | 149.5 | 4,378 | 104.2 | 2,592 | 108.8 |

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 4,543百万円 (158.0%) 28年3月期第2四半期 1,761百万円 (△6.4%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期第2四半期 | 75.64 | — |
| 28年3月期第2四半期 | 38.55 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|---------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 29年3月期第2四半期 | 130,106 | 49,678 | 37.0 |
| 28年3月期 | 132,101 | 49,597 | 34.5 |

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 48,139百万円 28年3月期 45,595百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年3月期 | — | 3.75 | — | 3.75 | 7.50 |
| 29年3月期 | — | 3.75 | — | — | — |
| 29年3月期(予想) | — | — | — | 3.75 | 7.50 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|------|-------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 120,000 | 0.1 | 6,100 | 32.8 | 7,200 | 25.6 | 4,000 | 18.2 | 61.47 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 29年3月期2Q | 67,346,935 株 | 28年3月期 | 67,346,935 株 |
| ② 期末自己株式数 | 29年3月期2Q | 6,390,261 株 | 28年3月期 | 92,597 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 29年3月期2Q | 65,069,472 株 | 28年3月期2Q | 67,259,039 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当社は、当第2四半期連結累計期間において自己株式の取得を行いました。これにより平成29年3月期の連結業績予想における「1株当たり当期純利益」については当該自己株式の取得の影響を考慮して計算しております。

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|-------|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | P. 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | P. 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | P. 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | P. 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | P. 5 |
| (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | P. 5 |
| (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | P. 5 |
| (3) 追加情報 | P. 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | P. 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | P. 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | P. 8 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | P. 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | P. 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | P. 10 |
| (セグメント情報等) | P. 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国経済の減速の影響により輸出・生産面に鈍さがみられるものの、個人消費が雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅く推移したため、景気は総じて緩やかに回復を続ける状況となりました。

当第2四半期連結累計期間における清涼飲料業界の状況につきましては、8月以降の相次ぐ台風による被害等がありましたものの、防災意識の高まりや西日本地区における夏場の猛暑により、ミネラルウォーター等を中心に国内市場全体が押し上げられたため、清涼飲料業界全体では前年を上回る結果となりました。

カテゴリー別でみますと、ミネラルウォーターが前年を上回った他、茶系飲料につきましてもお客様による新製品が好調に推移したため、前年を上回る結果となりました。しかしながら、その他の清涼飲料（炭酸飲料・スポーツドリンク等）につきましては、東日本地区の天候不順や相次ぐ台風の影響等により販売が伸びず、前年を下回る結果となりました。

容器別では、缶製品につきましては、缶コーヒーが引き続きカップ式カウンターコーヒーの普及の影響等がありましたものの、無糖系ブラックコーヒーを中心としたリシール缶（ボトル缶）が好調でありましたため、前年を上回る結果となり、また、ペットボトル製品につきましても前年を上回る結果となりました。

食品缶詰業界につきましては、水産缶詰では主力のツナ缶は順調でありましたが、その他の水産缶詰につきましては、水産原料の不足による製品価格の値上がり等の影響を受けたため、前年を下回る結果となりました。また、農産缶詰につきましても8月以降発生した相次ぐ台風の被害等により農産原料の確保が出来ず、大幅な減産となりましたため、食品缶詰全体では前年を下回る結果となりました。

[容器事業]

(メタル缶)

①飲料缶・食品缶

飲料用スチール空缶につきましては、主力の缶コーヒーが、アルミ缶化の影響やリシール缶（ボトル缶）拡大の影響等がありましたものの、主要なお客様への販売が好調に推移したため飲料用スチール空缶全体では前年を大きく上回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、農産缶詰において、主力のスイートコーン缶が8月に発生した台風の被害により前年を大きく下回り、また、水産缶詰につきましてもサンマ等の原料不足と製品価格高騰の影響により前年を下回りましたため、食品缶詰用空缶全体では前年を下回る結果となりました。

②その他

エアゾール用空缶につきましては、主力の殺虫剤や家庭用品等が好調に推移したため前年を上回る結果となりました。

また、美術缶につきましても、新商品の受注により販売が好調に推移したため、前年を上回る結果となりました。

(プラスチック容器)

①飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、お客様による内製化の影響に加え、東日本地区における夏場の天候不順等も影響し、前年を下回りましたものの、無菌充填用プリフォーム（ボトル成型前の中間製品）は積極的な営業活動により、前年を上回る結果となりました。

②食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、贈答用商品は前年を下回りましたものの、当社グループにおいて新規開発したスクイズ機能ボトル（くびれプッシュボトル）の販売等が好調に推移したため、食品用ペットボトル全体では前年を上回る結果となりました。

③その他

一般成形品につきましては、食品用や洗剤関連が新規受注等により増加いたしましたものの、化粧品用が前年の主要なお客様のリニューアル生産の反動により前年を下回り、また、バッグインボックスにつきましても前年を下回りましたため、一般成形品全体では前年を下回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は21,634百万円（前年同期比1.1%減）となり、営業利益は1,970百万円（前年同期比97.9%増）となりました。

〔充填事業〕

(缶製品)

缶製品につきましては、リシール缶（ボトル缶）が新製品の獲得等により前年を上回る販売となりましたものの、通常缶につきましては、炭酸ラインを閉鎖した影響等により前年を大きく下回る販売となりましたため、缶製品全体では前年を下回る結果となりました。

(ペットボトル製品)

ペットボトル製品につきましては、アセプティック（無菌充填）を含む大型ペットボトル製品は、前年を下回る販売となりましたものの、アセプティック（無菌充填）を含む小型ペットボトル製品につきましては、積極的な営業活動により各社の新製品を受注するなど、前年を大きく上回る販売となりましたため、ペットボトル製品全体では前年を上回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造販売を営むくじらい乳業株式会社を加えた充填事業全体の売上高は40,436百万円（前年同期比4.6%増）となり、営業利益は5,075百万円（前年同期比45.2%増）となりました。

〔機械製作事業〕

機械製作事業につきましては、エンジニアリング部門における受注減少の影響がありましたものの、自動車部品生産機械やリチウム電池製造設備の受注獲得により、機械製作事業全体の売上高は1,505百万円（前年同期比92.6%増）となり、営業利益は96百万円（前年同期は営業損失21百万円）となりました。

〔その他〕

インドネシアにおいて、容器（ペットボトル）製造から内容物の充填までを一貫しておこなうPT. HOKKAN INDONESIA（ホッカカン・インドネシア社）では、新規顧客の獲得により販売が好調に推移したため、前年を上回る販売となりました。

また、ベトナムにおいて清涼飲料の受託充填事業を営んでおりますNIHON CANPACK (VIETNAM) CO., LTD.（日本キャンパック・ベトナム社）は、一部得意先の販売が減少するなど、前年を下回る結果となりました。

以上の結果、工場内の運搬作業等を行っております株式会社ワーク・サービスおよび化粧品等製造販売を営む株式会社コスメサイエンスを加えたその他全体の売上高は2,745百万円（前年同期比0.3%増）となり、営業利益は26百万円（前年同期は営業損失93百万円）となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間における売上高は66,322百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益は6,621百万円（前年同期比74.0%増）、経常利益は7,505百万円（前年同期比71.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,921百万円（前年同期比89.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は130,106百万円(前連結会計年度末は132,101百万円)となり1,995百万円の減少となりました。これは受取手形及び売掛金の増加(23,752百万円から25,393百万円へ1,640百万円の増)並びに現金及び預金が増加(2,155百万円から3,282百万円へ1,126百万円の増)したものの、投資有価証券の減少(22,478百万円から20,007百万円へ2,471百万円の減)、有形固定資産の減少(62,553百万円から60,924百万円へ1,629百万円の減)及び長期貸付金が減少(757百万円から203百万円へ553百万円の減)したことが主な要因であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は80,427百万円(前連結会計年度末は82,504百万円)となり2,076百万円の減少となりました。これは支払手形及び買掛金の増加(18,245百万円から19,391百万円へ1,145百万円の増)及び未払法人税等が増加(1,606百万円から2,701百万円へ1,095百万円の増)したものの、長期借入金の減少(37,175百万円から33,823百万円へ3,352百万円の減)及び流動負債の「その他」に含まれております未払金が減少(3,461百万円から2,679百万円へ781百万円の減)したことが主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は49,678百万円(前連結会計年度末は49,597百万円)となり81百万円の増加となりました。これは非支配株主持分の減少(4,001百万円から1,539百万円へ2,461百万円の減)、自己株式の増加(△29百万円から△1,952百万円へ1,923百万円の減)及び為替換算調整勘定が減少(108百万円から△300百万円へ408百万円の減)したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益4,921百万円を計上したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年11月1日に公表いたしました「平成29年3月期 第2四半期累計期間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,155 | 3,282 |
| 受取手形及び売掛金 | 23,752 | 25,393 |
| 電子記録債権 | 2,633 | 4,075 |
| 商品及び製品 | 4,117 | 4,360 |
| 仕掛品 | 2,013 | 1,958 |
| 原材料及び貯蔵品 | 2,564 | 2,525 |
| 繰延税金資産 | 683 | 624 |
| その他 | 4,828 | 3,406 |
| 貸倒引当金 | △20 | △21 |
| 流動資産合計 | 42,728 | 45,605 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 23,558 | 22,821 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 18,748 | 17,674 |
| 土地 | 16,072 | 16,067 |
| リース資産（純額） | 2,596 | 2,834 |
| 建設仮勘定 | 1,050 | 970 |
| その他（純額） | 527 | 556 |
| 有形固定資産合計 | 62,553 | 60,924 |
| 無形固定資産 | 1,177 | 1,072 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 22,478 | 20,007 |
| 長期貸付金 | 757 | 203 |
| 繰延税金資産 | 21 | 8 |
| 退職給付に係る資産 | 522 | 452 |
| その他 | 2,130 | 2,094 |
| 貸倒引当金 | △267 | △262 |
| 投資その他の資産合計 | 25,641 | 22,504 |
| 固定資産合計 | 89,373 | 84,500 |
| 資産合計 | 132,101 | 130,106 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 18,245 | 19,391 |
| 短期借入金 | 11,623 | 11,962 |
| リース債務 | 579 | 459 |
| 未払法人税等 | 1,606 | 2,701 |
| 賞与引当金 | 832 | 835 |
| その他 | 7,236 | 5,177 |
| 流動負債合計 | 40,123 | 40,528 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 37,175 | 33,823 |
| リース債務 | 648 | 1,105 |
| 繰延税金負債 | 841 | 968 |
| 退職給付に係る負債 | 3,025 | 3,070 |
| その他 | 690 | 931 |
| 固定負債合計 | 42,381 | 39,899 |
| 負債合計 | 82,504 | 80,427 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 11,086 | 11,086 |
| 資本剰余金 | 10,744 | 11,049 |
| 利益剰余金 | 19,847 | 24,517 |
| 自己株式 | △29 | △1,952 |
| 株主資本合計 | 41,649 | 44,701 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,008 | 4,758 |
| 繰延ヘッジ損益 | △69 | △48 |
| 為替換算調整勘定 | 108 | △300 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △1,100 | △972 |
| その他の包括利益累計額合計 | 3,946 | 3,438 |
| 非支配株主持分 | 4,001 | 1,539 |
| 純資産合計 | 49,597 | 49,678 |
| 負債純資産合計 | 132,101 | 130,106 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 64,049 | 66,322 |
| 売上原価 | 53,640 | 52,775 |
| 売上総利益 | 10,409 | 13,547 |
| 販売費及び一般管理費 | 6,604 | 6,925 |
| 営業利益 | 3,804 | 6,621 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 8 | 11 |
| 受取配当金 | 160 | 175 |
| 持分法による投資利益 | 449 | 687 |
| 受取賃貸料 | 64 | 58 |
| 受取保険金 | 237 | 36 |
| その他 | 216 | 179 |
| 営業外収益合計 | 1,137 | 1,149 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 240 | 178 |
| 為替差損 | 127 | - |
| 弔慰金 | 125 | 10 |
| その他 | 69 | 77 |
| 営業外費用合計 | 563 | 266 |
| 経常利益 | 4,378 | 7,505 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | - | 465 |
| 関係会社株式売却益 | - | 357 |
| その他 | - | 22 |
| 特別利益合計 | - | 845 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 23 | 105 |
| 減損損失 | 127 | - |
| 経営統合関連費用 | - | 146 |
| その他 | 7 | 2 |
| 特別損失合計 | 157 | 254 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 4,220 | 8,096 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,158 | 2,635 |
| 法人税等調整額 | 93 | 254 |
| 法人税等合計 | 1,252 | 2,890 |
| 四半期純利益 | 2,968 | 5,206 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 376 | 284 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,592 | 4,921 |

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純利益 | 2,968 | 5,206 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △564 | △238 |
| 繰延ヘッジ損益 | 32 | △0 |
| 為替換算調整勘定 | △663 | △565 |
| 退職給付に係る調整額 | 54 | 112 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △66 | 28 |
| その他の包括利益合計 | △1,207 | △663 |
| 四半期包括利益 | 1,761 | 4,543 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,583 | 4,413 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 177 | 129 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、平成28年5月11日、平成28年8月5日及び平成28年9月29日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行っております。この結果、自己株式は当第2四半期連結累計期間において1,924百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において1,952百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|----------|----------|------------|--------|--------------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 容器 事業 | 充填 事業 | 機械製作 事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 21,872 | 38,657 | 781 | 61,311 | 2,738 | 64,049 | — | 64,049 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 3,102 | 0 | 964 | 4,068 | 755 | 4,823 | △4,823 | — |
| 計 | 24,975 | 38,657 | 1,746 | 65,379 | 3,493 | 68,873 | △4,823 | 64,049 |
| セグメント利益又は損失(△) | 995 | 3,494 | △21 | 4,469 | △93 | 4,375 | △570 | 3,804 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、工場内運搬作業等の請負事業及び化粧品等製造販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△570百万円には、セグメント間取引消去16百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△587百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|----------|----------|------------|--------|--------------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 容器 事業 | 充填 事業 | 機械製作 事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 21,634 | 40,436 | 1,505 | 63,576 | 2,745 | 66,322 | — | 66,322 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 2,891 | — | 841 | 3,732 | 775 | 4,507 | △4,507 | — |
| 計 | 24,525 | 40,436 | 2,346 | 67,309 | 3,520 | 70,830 | △4,507 | 66,322 |
| セグメント利益 | 1,970 | 5,075 | 96 | 7,142 | 26 | 7,168 | △546 | 6,621 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、工場内運搬作業等の請負事業及び化粧品等製造販売事業であります。

2 セグメント利益の調整額△546百万円には、セグメント間取引消去105百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△652百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。